

形成外科

1、付属病院における担当診療科

形成外科

2、形成外科において取得可能な専門医

(1) 日本形成外科学会専門医

(2) 日本美容外科学会認定医

3、各種専門医受験資格

専門医		受験に必要な研修期間	受験に必要な学会会員歴
形成外科専門医		初期臨床研修2年+認定施設4年以上あるいは認定施設2年または教育関連施設2年以上 計4年	卒後3年目に入会すればよい
美容外科認定医		日本美容外科学会に申請	形成外科専門医

4、診療分野ならびに特徴ある診療内容

A. 診療分野

- (1) 新鮮熱傷
- (2) 顔面骨骨折、顔面軟部組織損傷
- (3) 口唇裂、口蓋裂
- (4) 手足の先天異常、外傷
- (5) その他の先天異常
- (6) 母斑、血管腫、良性腫瘍
- (7) 悪性腫瘍およびそれに関連する再建
- (8) 瘢痕、瘢痕拘縮、ケロイド
- (9) 褥瘡、難治性潰瘍
- (10) 美容外科
- (11) その他

B. 特徴ある診療内容

- 頭頸部再建術、特にマイクロサージャリーによる自家遊離組織の移植術
- 機能的かつ審美的な上下顎骨硬組織再建法を開発、世界に普及している。
- 微小血管吻合技術を修練できる。
- 人工物あるいは自家組織移植による乳房再建術

- 皮弁採取部の機能を温存するため、穿通枝皮弁の修練ができる。
- 顔面神経麻痺に関する様々な手術が修練できる。
- 内視鏡補助下の手術が修練できる。
- 顔面外傷における創処置あるいは修復、手術方法が学べる
- 美容的な創縫合技術が習得できる。
- 褥瘡の予防、管理、外科治療を総合的に修練することができる。
- 再生医学を応用した難治性潰瘍や神経修復術を研究している。
- 他科との合同手術を通して、形成外科の役割を学ぶ。

研修カリキュラム

- | | |
|---------|--|
| 入局～1年まで | <ol style="list-style-type: none"> 1) 形成外科的診療法・記載法 2) 手術前・後の管理 3) 創処置 4) 簡易なスプリント及びギプス固定法 5) 形成外科的外傷の救急処置 6) 形成外科的諸手術の助手 7) 形成外科的縫合法（全層植皮の恵皮部等を利用して） 8) 小範囲の分層・全層植皮の採取法 9) 種々の部位の分層・全層植皮術 10) 簡単な瘢痕拘縮形成術 11) 簡単な皮弁作成 12) 簡単な顔面の手術あるいは手の外科手術などの手術において部分的な執刀者となる。 13) マイクロサージャリーの手術手技の修練（練習用チューブ、ラット等を利用） 14) 褥瘡管理の修練 <p>この時期の後半には日本形成外科学会各支部地方会に演者として演題を発表する。</p> |
| 2年以降～3年 | <ol style="list-style-type: none"> 1) 上記修練を引き続き続ける。 2) 手術計画の立案 3) 全身熱傷の管理・手術 4) 顔面骨骨折の管理・手術 5) 筋皮弁・筋膜皮弁の挙上手術 |

- 6) 皮弁採取後の閉鎖縫合法
- 7) 先天性異常の手術
- 8) 頭頸部や手の機能再建手術
- 9) 遊離複合組織移植術
- 10) 内視鏡下手術

などの手術において部分的な執刀者になる。

- 11) 外来において科長の指導下で外来新患者の診断を修練。

- 12) 基礎実験を立案し実施する。

日本形成外科学会、日本頭頸部腫瘍学会等に演者として演題を発表し、論文を執筆する。

科長の指導の下で形成外科の諸種の手術の執刀者となり、日本形成外科専

3年以降～4年 門医資格取得のための期間を修了する。

5、専門医研修施設

(1) 鳥取大学医学部附属病院

6、形成外科関連病院

○ 野島病院

○ 安来市立病院

7、その他専門医研修を依頼できる病院

○ 名古屋大学大学院医学研究科形成外科およびその関連病院

○ 愛知県がんセンター頭頸部外科

連絡先

鳥取大学医学部附属病院 形成外科

内線 6711

外線 0859-38-6711